

2015年3月18日 日本生態学会鹿児島大会(ESJ62)  
自由集会「教育と生態系サービス:学校・社会教育における生態学・生態系サービスの意義と認知」

# 日本・アジアSATOYAMA教育イニシアティブ Japan-Asia Satoyama Education Initiative

「環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業」課題



大黒俊哉(東京大学)

# Sub-global Assessment of Satoyama and Satoumi in Japan



2007年2月28日  
MR/E07/07



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

メディア用原稿  
非公式記録

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811  
Fax: 03-3499-2828  
E-mail: [media@unu.edu](mailto:media@unu.edu)  
Website: <http://www.unu.edu/>

## 国連大学高等研究所といしかわ国際協力研究機構、 日本における里山・里海のサブ・グローバル評価を 3月8日に開始

### 背景

- 日本は国土の約4割が里山と言われている。しかし、様々な要因（農村から都市への人口流出の増加、土地利用の変化、伝統的農耕の放棄など）が組み合わさって、広範囲にわたる里山の劣化と減少を招いている。
- 2006年後半から、国連大学高等研究所と、その特別プログラムであるいしかわ国際協力研究機構は、日本における里山・里海のサブ・グローバル評価（SGA）の開始に向け、準備を進めてきた。
- このイニシアティブは、ミレニアム生態系評価（MA）で用いられたサブ・グローバル評価の枠組みを適用して、日本の里山や里海が提供する生態系サービスを明らかにし、その持続可能な管理方法を提案しようというものである。政策決定に関連する課題と利用者のニーズをもとに、生態系が人間の福利にもたらすサービスに焦点を当てた評価を行う。
- この里山と里海に関するSGAは、日本で行われる初めてのSGAとなる。これは現在世界各地で行われているMAのサブ・グローバル評価に反映されると同時に、日本の国家および地域の戦略をより効果的なものにするために役立てられることが期待される。
- もうひとつの大きな目標は、日本政府が開催地として立候補している2010年の生物多様性条約第10回締結国会議（CBD COP-10）にインプットを与えることである。

**MEDIA ALERT**

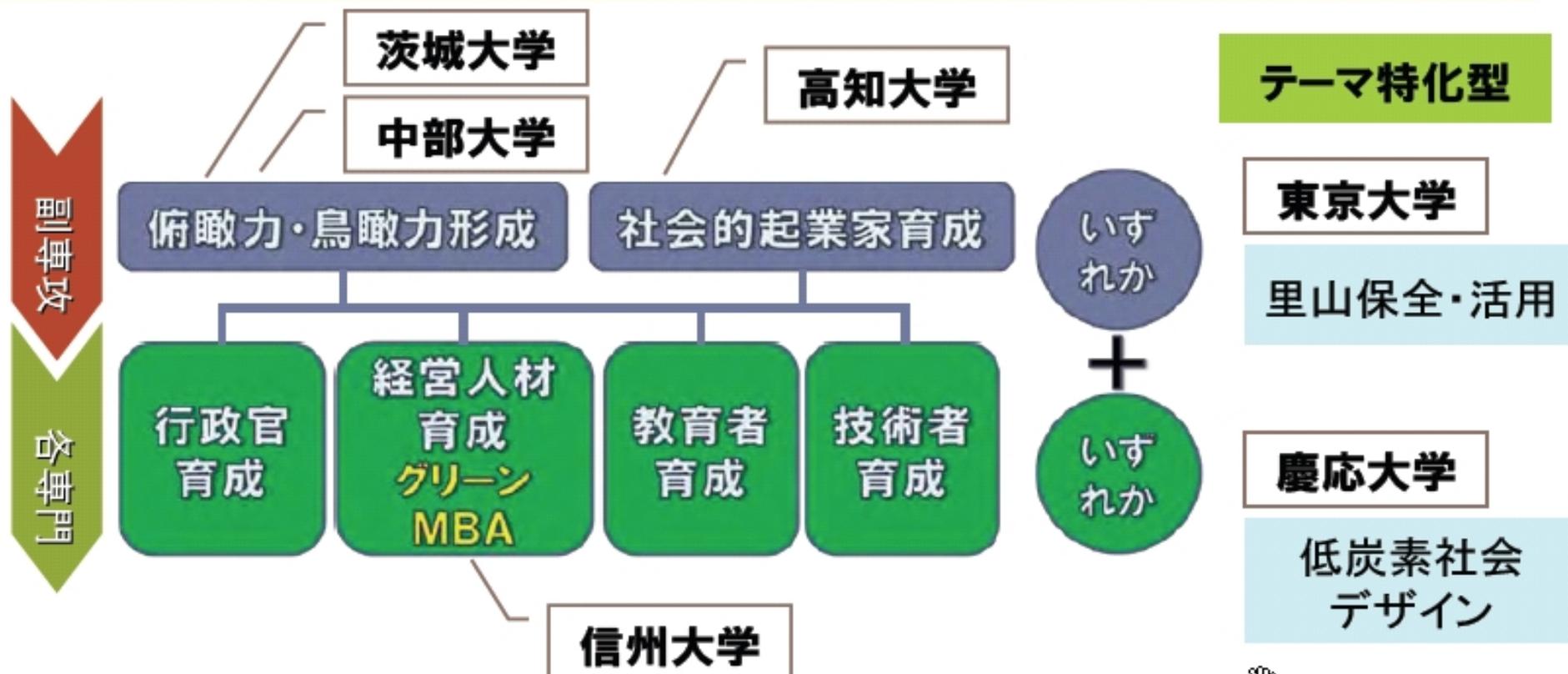
# 「環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業」

## 平成20年度採択プログラムについて

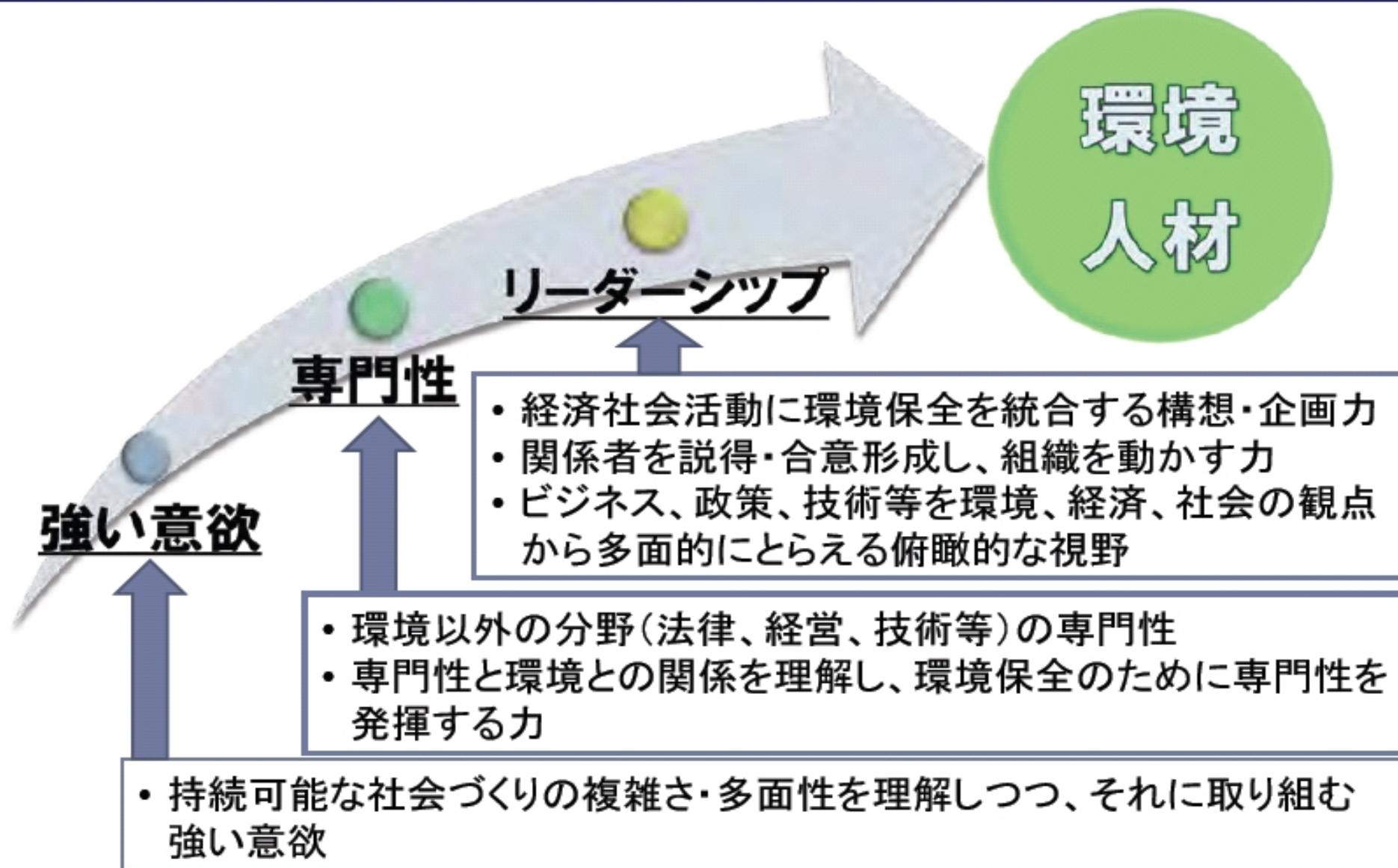
大学数： 6大学

実施期間： 1年目： 開発、2～3年目： 実施・評価

## 環境人材育成モデルプログラムのイメージ



# 環境人材に求められる3大要素



大学・大学院は3大要素を統合して学ぶことが可能<sup>5</sup>

# プログラムの趣旨

「日本・アジアSATOYAMA教育イニシアティブ」は、平成20年度より開始された、生圏システム学専攻修士課程対象の講義・演習・実習統合型教育プログラムです。また、「日本・アジアに関する部局横断型教育プログラム」の講義科目として、全学の大学院生が受講できます。

本教育プログラムは、「里山」に代表される伝統的な地域資源の利用・管理システムへの理解を深めるとともに、フィールドでの実践および国際的な交流を通じて、アジアに共通する自然観を現代社会に再編・再生するための方途を自ら見出し、それらをあらたな循環・共生型社会モデル(SATOYAMA Model)としてアジアおよび世界に発信できる国際的な環境リーダーの育成をめざします。

(生圏システム学専攻パンフレットより)

# プログラムの概要

## 里山学とは？

里山学とは、自然環境と人間活動の係わりの理解に基づき、自然共生社会を拓く自然・社会システムを構築していくための総合科学です。生態系サービス、生物多様性、資源・エネルギー、コモンズ、コミュニティー再生、パートナーシップ等をキーワードに、生態学、緑地環境学、農村計画学、社会学、民俗学、人類生態学など、多様な学問領域から里山の自然・社会システムをとらえ、文理融合アプローチによりそれらを体系化していくことをめざします。また、アジア各地の里山的な景観・土地利用を、自然環境と人間活動の係わりという観点から比較・体系化することにより、アジア地域に蓄積している「自然との共生の智慧」を明らかにし、アジア型自然共生社会)の現代的再生・再編のあり方を考えていきます。

## 教育の目標

- 里山の自然および人文・社会システムに関する高度な専門知識
- 実際のフィールドにおける実践力, 問題解決能力
- 国際的な情報発信能力およびコミュニケーション能力

## 修了者が活躍する分野

- 持続可能な社会形成に寄与する教育者や技術者
- 政府機関・自治体等の行政担当者、国際機関のコーディネーター
- 専門知識を生かした社会的活動等において活躍する人材

# これまでの教育実績と現状分析

21世紀COE「生物多様性・生態系再生研究拠点」(平成15～19年度)

生圏システム学専攻: 生物多様性の保全と生物資源の持続的利用を目指した研究・教育

講義  
高度な専門知識習得

フィールド実習  
現場での実践的知識習得

AGRI-COCOON  
現場実習の充実化

AGRICOCOON: 産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構

食の安全・安心FG、国際農業と文化FG、バイオマス利用FG、**生物多様性・生態系再生FG**、情報利用研究FG



実習「自然再生事業モニタリング実習」  
→霞ヶ浦湖岸での市民参加型調査・植生管理  
に大学院生が参加



演習「生物多様性と農業」  
→自治体、NPO、企業などが参加するシンポジウムに大学院生が参加



# これまでの教育実績と現状分析

21世紀COE「生物多様性・生態系再生研究拠点」(平成15～19年度)

## 生圏システム学専攻

**講義**  
高度な専門知識習得

**フィールド実習**  
現場での実践的知識習得

**ASNET**  
文理融合教育

**AGRI-COCOON**  
現場実習の充実化

## 強化すべき能力・素養

**学際的視野**  
**文理融合アプローチ**

**環境リーダー**  
**としての素養**

**グローバルな俯瞰力**  
**情報発信力**

学術拠点

フィールド拠点

国際拠点

# カリキュラムと教育手法の特色



## 学術拠点 :東京大学

<専門科目の新設と既存科目の充実>

- 文理融合アプローチによる科目  
「里山学総論」
- 招へい外国人講師による科目  
「アジア自然共生論」



- 学内・学外の教員・大学ネットワークの活用 (ASNET、APRU、ProSPER.NET等)
- グループワーク等、アクティブラーニングによる能動的な講義への参加



## 国際拠点 :国連大学高等研究所

<ウィンタープログラムの開講>

- ミレニアム生態系評価等の国際プロジェクトに関する英語講義
- 論文作成およびディベート能力育成のための演習



- 国際機関に在籍する優れた人的資源の活用 (国連大学、同高等研究所等)
- 国連大学が実施中の持続可能な開発のための教育プログラム (EfSD)の活用



## フィールド拠点 :兵庫県豊岡市

<サマープログラムの開講>

- 生物多様性保全型水田、里山管理等の実践現場を活用した野外実習
- 多様な主体とのフォーラム型交流
- 市民参加型活動の体験学習

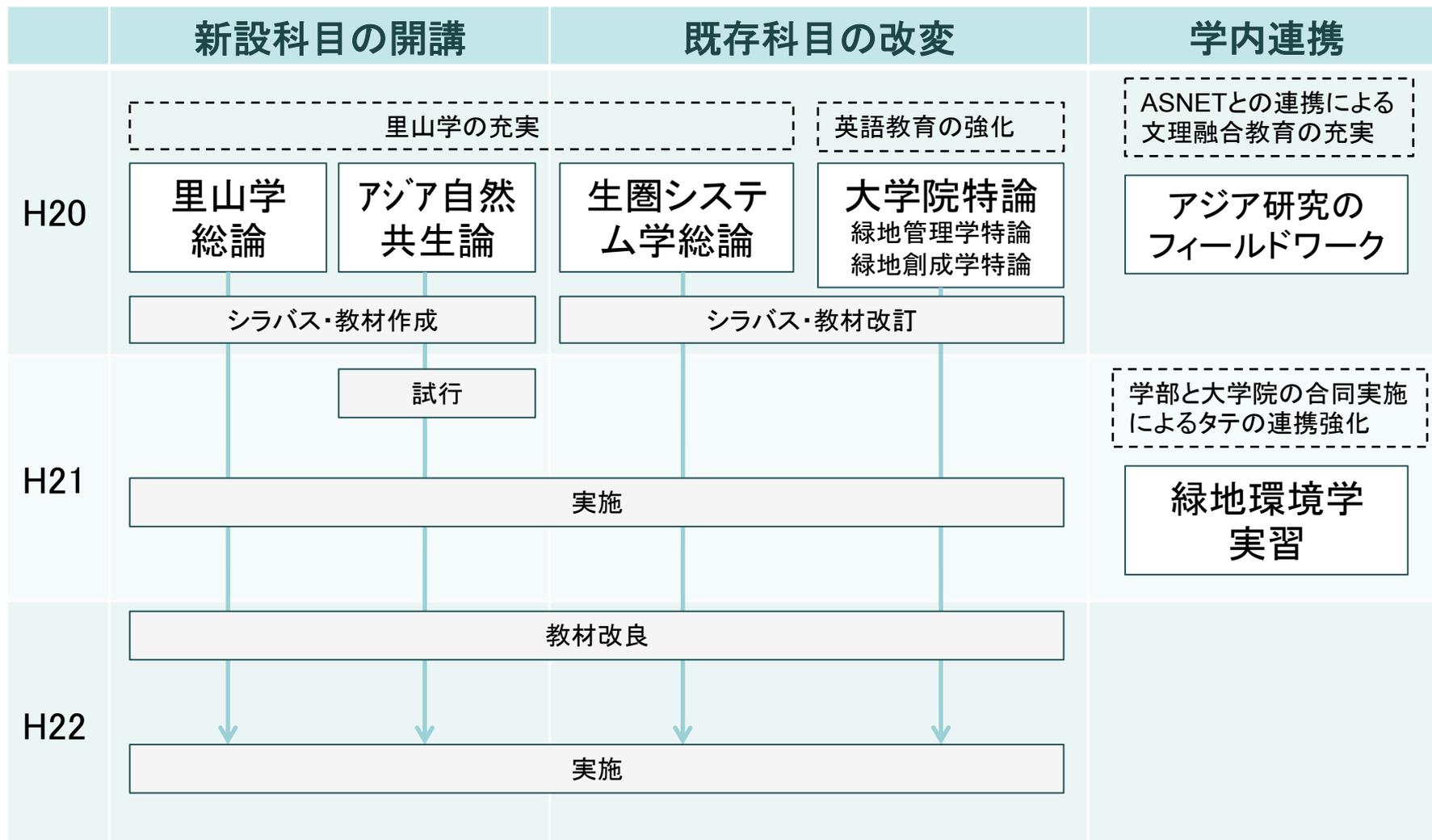


- ステークホルダーとの討論の場の提供
- 実践現場の多様な教育効果 (持続可能な社会形成への動機づけ、起業家精神の醸成等)の活用

アジア大学間教育ネットワークを活用した  
国際交流機会の提供

# 学術拠点

東京大学において、里山の生態系サービス、資源利用と管理にかかわる人文・社会システム、自然再生技術等に関する専門知識習得のための教育を行う。そのため、新規科目の創設および既存科目の充実を図る。また、アジアからの留学生等の履修を考慮するとともに里山コンセプトの国際発信能力の強化をはかるため、英語による講義を充実させる。



ASNETとの連携による  
文理融合教育の充実

アジア研究の  
フィールドワーク

学部と大学院の合同実施  
によるタテの連携強化

緑地環境学  
実習

学術拠点：

# 里山学総論

- 昨年度に作成したシラバス・教材に基づき、集中講義＋エクスカージョン（すべて英語）として実施（3日間）
- 里山イニシアティブ、里山・里海サブグローバル評価等、COP10に向けた最新の取り組みを教材に活用
- 「シナリオ作成」を課題として設定。ディスカッションの素材としても活用
- 現在、英語教材の加筆・修正作業中

武内：序論－里山学とは？

山本：農林業が支える里山のランドスケープ

宮下：生態系のつながりと里山の生物多様性

樋口：東アジアの自然とつながる日本の里山生態系

古澤：里山の暮らしと人間の福利・健康

青柳：新たな公～誰が里山保全を担うのか？

鷺谷：里地・里山の生態系とその再生

大黒：里山の生態系サービスを評価する

全員：エクスカージョン

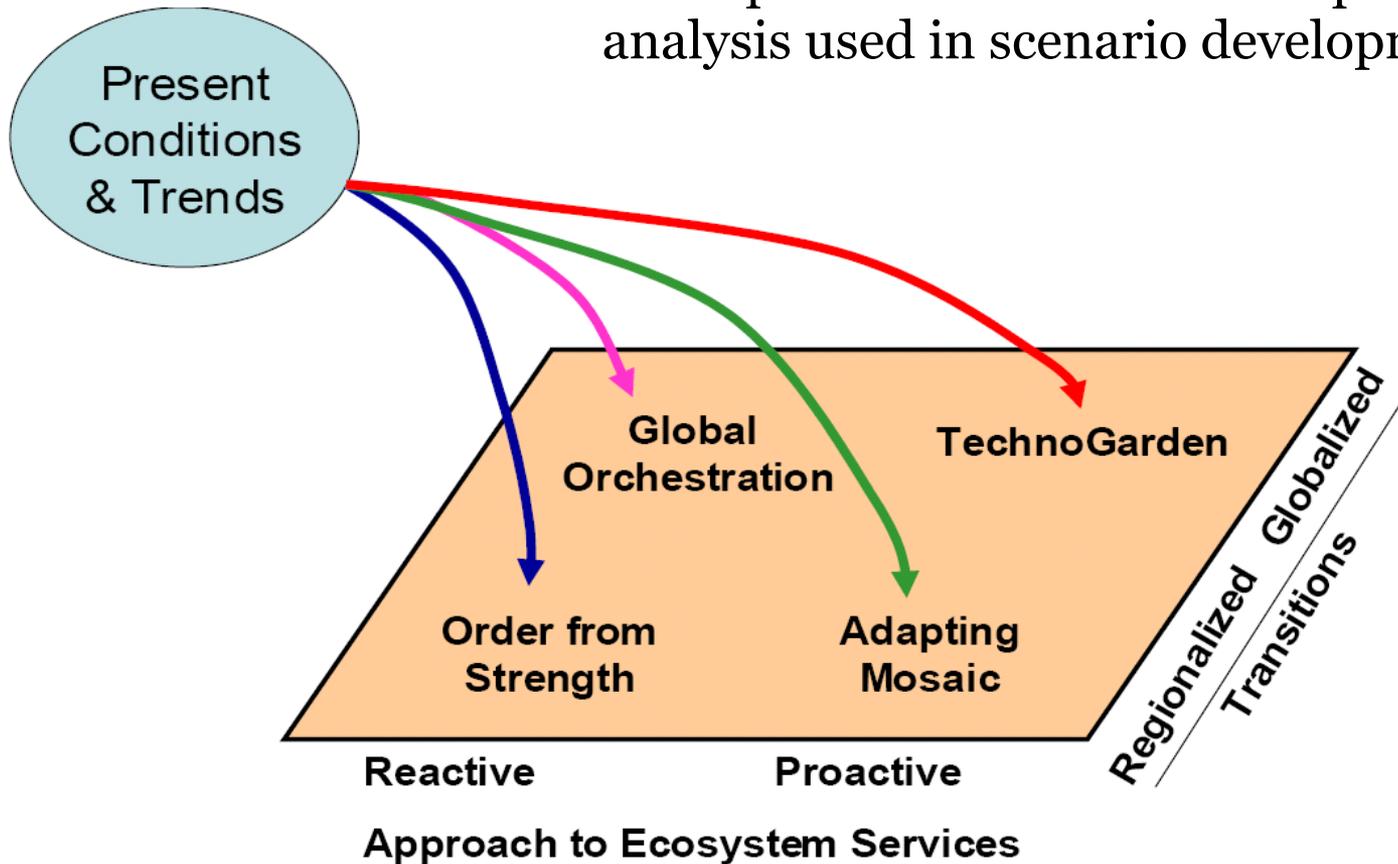


# Subject of Report

- Describe scenarios for future Satoyama through the following processes,
  - Select two ‘Uncertainties’ which determine two axes in scenario building, e.g.;
    - External... social/economic
    - Internal... attitude/behavior/value/policy
  - Consider 4 scenarios which could be created along two ‘uncertainty’ axes
  - Show the titles of 4 scenarios which express images of the scenarios clearly and effectively within 5 words
  - Select 1 scenario out of 4 and describe a storyline, a narrative description of a scenario which highlights its main features and the relationships between the scenario’s driving force and its main features

# MA Scenarios

- Not predictions – scenarios are plausible futures
- Both quantitative models and qualitative analysis used in scenario development



# 里山里海サブグローバル評価における 4つのシナリオ (JSSA, 2010)



Figure 13 Global Technopia

### Global Technopia

- Increased international residents & labors
- Population concentration in megacities
- Liberalisation of trade & economy
- Technology as foundation of nation under centralised governing system
- Use of technologies for environmental changes, and preferences for artificial environment



Figure 12 Global Environmental Citizens

### Global Environmental Citizens

- Increased international residents & labors
- Counter urbanisation, increase in exchange between rural and urban areas
- Liberalisation and greening of trade & economy
- Environment as foundation of nation under centralised governing system
- Adaptive management, eco-friendly design



Figure 14 Techno Introvert

### Techno Introvert

- Population concentration in cities
- Protected trade and economy
- Promotion of technology-based nation
- Decentralisation of governmental authority
- Prefer to transform the environment to effectively obtain ecosystem services

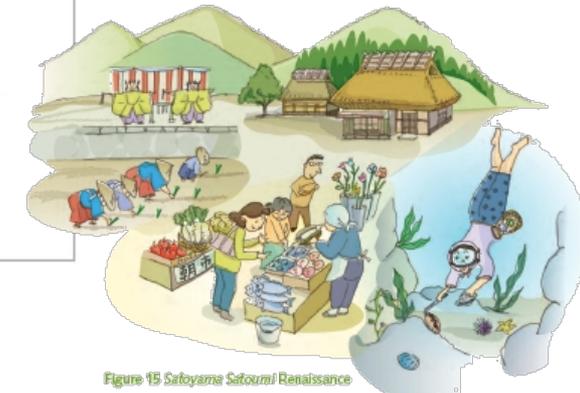


Figure 15 Satoyama Satoumi Renaissance

### Satoyama Satoumi Renaissance

- Counter urbanisation, increase in exchange between rural and urban areas
- Protected trade and economy
- Growth of green economy and policies
- Promotion of the environmental Nation
- Decentralisation of governmental authority
- Prefer to use adaptive management, traditional/indigenous knowledge, etc.

TECHNOLOGY ORIENTED  
(transformation of nature)

NATURE ORIENTED  
(adaptation to nature)

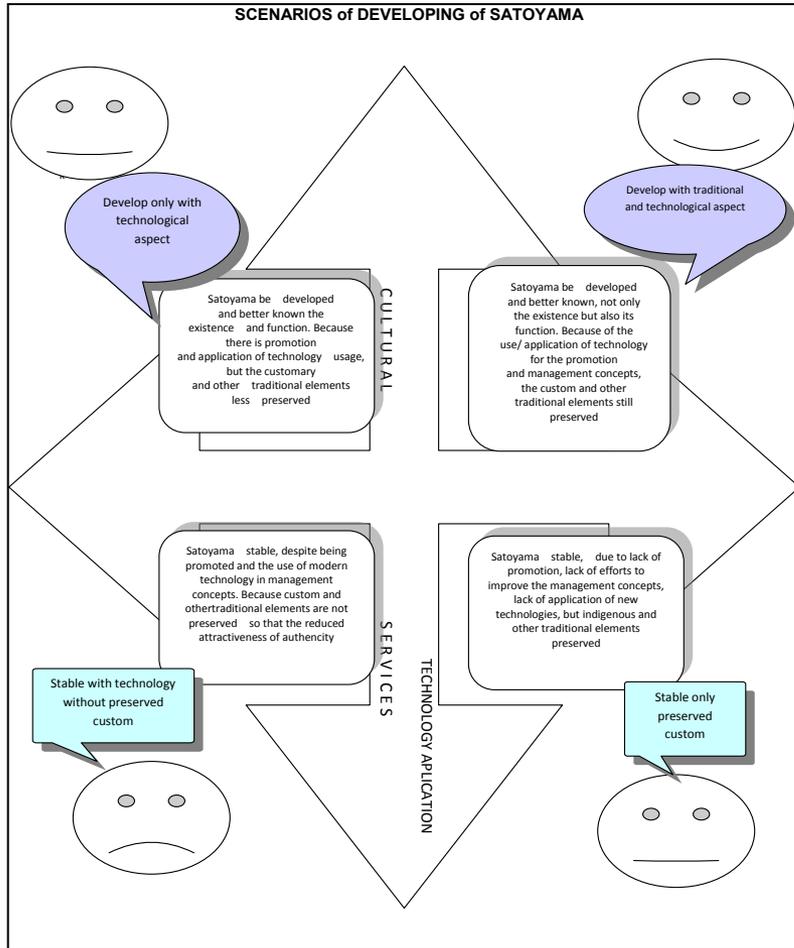
GLOBAL

LOCAL

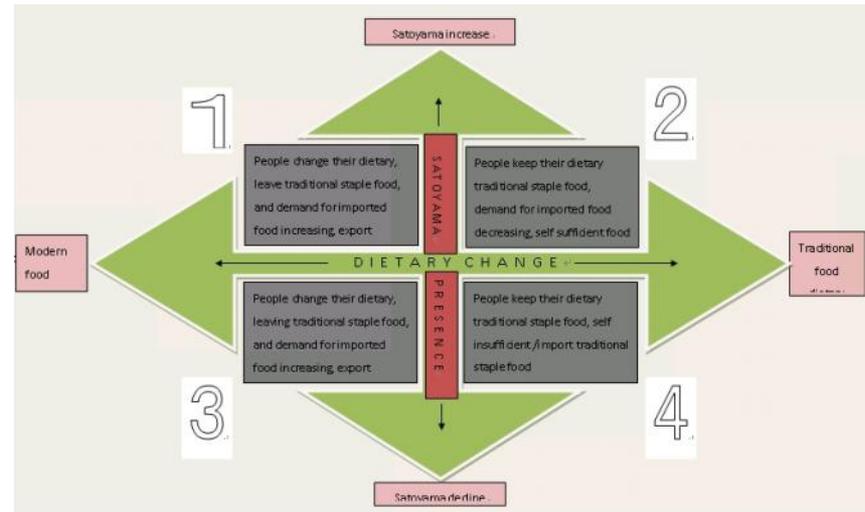
Japan Satoyama Satoumi Assessment, 2010. *Satoyama-Satoumi Ecosystems and Human Well-being: Socio-ecological Production Landscapes of Japan – Summary for Decision Makers.* United Nations University, Tokyo, Japan.

# 学術拠点：新設科目 里山学総論

# レポ<sup>o</sup>ート課題



		POPULATION (BIRTHRATE)			
		LOW		HIGH	
		Family Structure	Pop. Distribution	Family Structure	Pop. Distribution
TECHNOLOGY	LOW	Scenario I. Back to Eld		Scenario III. Back to 1970's	
	HIGH	Scenario II. Satoyama Holiday		Scenario IV. Long-distance Love	



# Excursion to Niiharu Citizen's Forest 「新治市民の森」



- パリケシット講師(インドネシアパジャジャラン大学)を招へいし、シラバス・教材を共同で作成したうえで、集中講義として実施
- 東南アジアの「里山的ランドスケープ」を事例に、生態系サービスの持続的利用と生物多様性保全について、日本の里山と比較しつつ議論
- 学生は講義内容を基にしたトピックを選択し、または与えられ、当日までに資料を調べ明らかにしたことを発表

## 学生発表の資料例

1. Human-nature interrelation: Introduction
2. Between 'human against nature' and 'human work with nature'
3. Ecosystem functions and services in human-dominated landscape
4. Biodiversity maintenance and condition in human-dominated landscape: Case of Indonesia
5. Human-nature interrelations: Energetic perspective
6. Decision making process and landscape structure

HOW IS EE DIFFERENT FROM CONVENTIONAL APPROACHES					
	Basic World View	Time, Space, and Species Frames	Primary Macro Goal	Primary Micro Goal	Assumptions about Technical Progress
"Conventional" Economics	Mechanical, Static, Atomistic	Short (1-4 yrs), Local to International, Humans	Growth of National Economy	Max Profits (firm) Max Utility (individual)	Very Optimistic
"Conventional" Ecology	Evolutionary, Atomistic	Multi-scale, Local to Regional, Non-Humans	Survival of Species	Max Reproductive Success	Pessimistic or No opinion
Ecological Economics	Dynamic, Systems, Evolutionary	Multi-scale, Local to Global, Ecosystem Including Humans	Ecological Economic System Sustainability	Must Be Adjusted to Reflect System Goals	Prudently Skeptical

### Life style and ecosystem services

- Half farming, half pastoralism
- ✓ Farming: maize, millet, bean and watermelon (!?)
- ✓ Pastoralism: sheep, goat, cow, horse, donkey



Provisioning services	Supporting services	Regulating services
Crop, products from livestock (meat, milk...)	Primary production (for livestock), soil formation.	Water regulation (esp. ground water level)



### Case #1 : utilization of woody biomass for electricity and pellet

In Shirakawa, Gifu prefecture (authorized in 2007. 03)

- Shirakawa is originally famous for forestry and wood production.



• Forest  
• factories

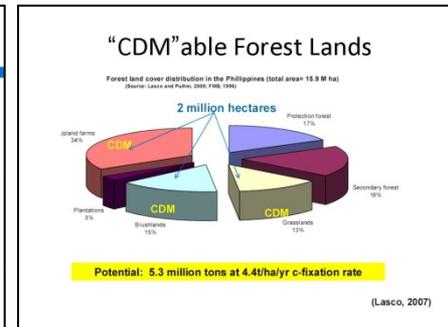
• electricity  
• pellet

• The productions are used at public facilities

• The city government give grant to personal use of bio-electricity

This system leads to..

- reduce CO<sub>2</sub> discharge, wastes
- create employment
- increase settlement residents
- maintain the forest etc.



- 既存科目「緑地創成学特論」について、ハノーヴァー大から招へいたクリスティーナ・ハーレン教授による里山保全の日独比較論に関する集中講義(八王子の里山保全活動に関する現地演習を含む)を実施し、英語による講義・演習の充実化を図った。
- 能動的な参加を促す教育手法(グループワーク、ステークホルダーとの討論、行政部局への提案等)について情報交換を行った。



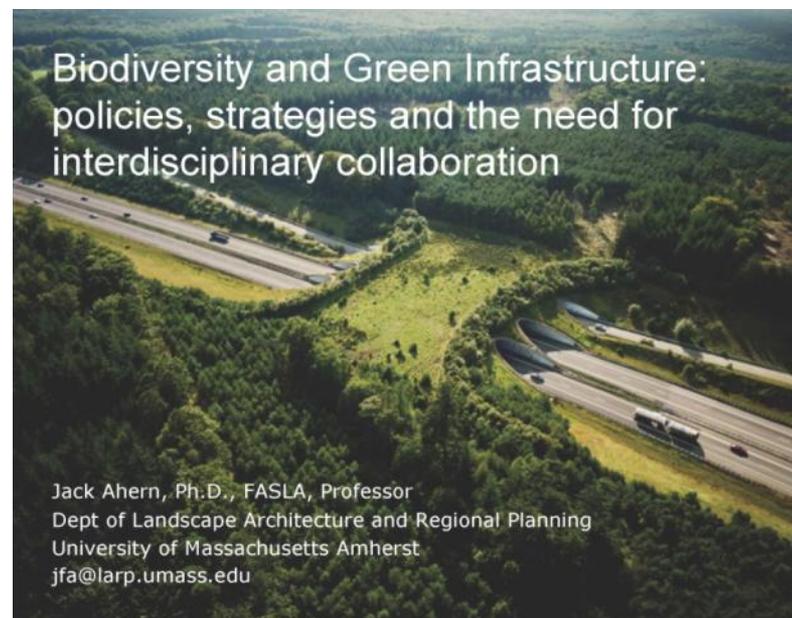
## Schedule

	13:00-15:00	15:00 - 17:00	
	<b>Section 1 Germany</b> Landscape Planning in Germany by Prof.Haaren	<b>Section 2 Japan</b> Students provide Japanese situation and examples from Hachioji	<b>Section 3</b> Comparison Discussion
20 Aug Wed	Landscape planning in Germany	What are the most important problems concerning endangered landscape (ecosystem) goods and services in Hachioji? Which priority measures would safeguard and improve the situation in Hachioji?	Choose measures for Hachioji area; discussion
21 Aug Thu	Legal instruments for implementation in Germany with special emphasis on impact regulation	Which ( <b>selected?</b> ) Japanese instruments are available and would be suitable for Hachioji?	Discussion and comparison with Germany
22 Aug Fri	Implementation on farmland	Which Japanese / German instruments are available and would be suitable for Hachioji?	Work out proposals for Hachioji
25 Aug Mon	Field Trip to Hachioji		
26 Aug Tue	Communication in planning and implementation	Final presentation of concept for Hachioji and proposals for instruments	

学術拠点：

# 緑地管理学特論

- ・ 既存科目「緑地管理学特論」について、マサチューセッツ大から招へいたジャック・アハーン教授による都市近郊の里山保全とエコロジカルネットワーク(グリーンウェイ)に関する集中講義(多摩川中流域の現地演習を含む)を実施し、英語による講義・演習の充実化を図った。
- ・ 能動的な参加を促す教育手法(グループワーク、プレゼンテーション)について情報交換を行った。



# アジア研究のフィールドワーク

- 本事業コア教員(民俗学、人類生態学、緑地学、農村計画学)による講義および実習(新潟県十日町市・小千谷市)を実施し、文理融合教育手法(インタビュー、討論会、参与観察)の試行を行った。



東京大学 ASNET  
大学院向け  
単位認定  
日本・アジア学講座  
平成20年度(冬学期) Academic Year 2008-09 Winter Semester  
10月スタート!

現代日本・アジア学 Introduction to Japan and Asia Studies  
アジアにおけるリスクと国際協力  
書き置かれる中国近代史  
都市の持続再生学B  
国際社会の変遷 - 情報通信技術革新期における日本の社会・社会心理の変化

日本・アジア学概論 Introduction to Asian Studies: History and International Relations  
Introduction to Asian Studies: History and International Relations  
アジアにおける水増産問題: 日本の経験の共有化の可能性  
ASNETは東京大学で地域やアジアに関する研究を、日本・アジアと関わりながら最先端に実施するものネットワークです。  
<http://www.asnet.dir.u-tokyo.ac.jp/edu/>  
お問い合わせ先 東京大学 国際連携本部 ASNET推進室  
TEL.03-5841-1682 内線21682  
E-mail: asnet@asnet.dir.u-tokyo.ac.jp



中山間直接支払い



ブナ帯の植生



棚田景観



農業と生物多様性



伝統文化



集落コミュニティー



地場産業



地場産業



高齢化と後継者

# 学部教育と大学院教育の連携

- ・ 学部1～2年生対象の全学自由研究ゼミナール「郊外と里山の環境学」と、大学院生対象の「緑地環境野外実習」を合同で実施し、タテの連携による教育効果を検討
- ・ 事前学習と発表、講義、野外実習をセットで実施



# フィールド拠点

生物多様性保全と農業振興・地域振興を両立させている先進的  
地域である兵庫県豊岡市においてサマープログラムを開催し、  
動機づけの醸成、合意形成能力やアントレプレナーシップの養成  
など、幅広い実践的知識と現場における問題解決能力の習得を  
目指す。



- 日英実習マニュアルの作成
- 課題選択と野外調査
- 地元・NPOとの対話、成果発表会
- 国連大学スタッフとの討論



## 実習スケジュール

10月5日

午後: 豊岡市内の自然再生事業・関連する保全事業の見学

10月6日

午前: 豊岡市内の自然再生事業・関連する保全事業の見学

午後: 田結地区における調査

夕方: 地元・NPOコウノトリ市民研究所の方との懇談会

10月7日

午前: 田結地区における野外調査

午後: 田結地区における選択課題による調査

夕方: 国連大学スタッフとの討論会

10月8日

午前: 発表資料の作成

午後: ワークショップ(成果発表を含む)

# 「田結の魅力伝えて」

里山の自然と暮らし調査

東大大学院生 豊岡・港中で報告会



大学院生の報告に耳を傾ける中学生＝豊岡市気比の市立港中学で

豊岡市田結地区の里山の自然と人の暮らしを調査していた東京大大学院生23人が8日、市立港中(同市気比)で報告会を開いた。東大と国連大学高等研究所、豊岡市が連携して環境リーダーを育成する「SATO YAMA教育イニシアティブ」事業。08年から始まり、現地調査は昨年秋に続き2回目。

た照井慧さん(23)からは、モクスガニが田結川の上流になるほど大域の魅力を気づいていない。皆さんから大人に伝えてほしい」と呼びかけた。

【皆木成史】

# 学ぶ里山の力

朝日新聞 但馬版 2010年10月9日

希少な里山の自然が残っている豊岡市の田結地区で、生物多様性をテーマに実習した東京大学の大学院生らが成果を発表する報告会が8日、同市気比の市立港中学校であった。生物調査の結果や貴重な自然を生かしたエコツアーの提案などに、全校生徒93人や地域の約70人が耳を傾けた。

## 東大院生が報告会



中学生らに田結地区での調査結果を説明する東大の大学院生(手前左)＝豊岡市気比

## 豊岡・田結 エコツアー提案

実習は、同市と東大、国連大学が里山を教材に次世代の環境リーダーの育成を目的に2008年度から実施している講義「SATO YAMA教育イニシアティブ」の一環として実施。東大の院生22人が今月5日から3泊4日の日程で同地区に入り、生物や観光資源としての活用策などの調査に取り組んだ。

修士課程2年の北村嘉崇さん(28)らのグループは、小学生がいる家族連れを対象にした「田結親子エコツアー」を提案。2日間の日程で、田結地区の自然や歴史を学校の教科になぞらえて体感する内容で、算数では夜間にシカを観察し、照明に反射する目を数えて全体の頭数を割り出し、理科では湿地で生き物を調査。家庭科では魚や貝類をとり、調理体験をする。

北村さんは「実習ではたくさんこのことを田結で学んだというイメージが強かった。ツアーのターゲットを絞る必要もあり、親子連れが学ぶ内容にしてみました」と話していた。

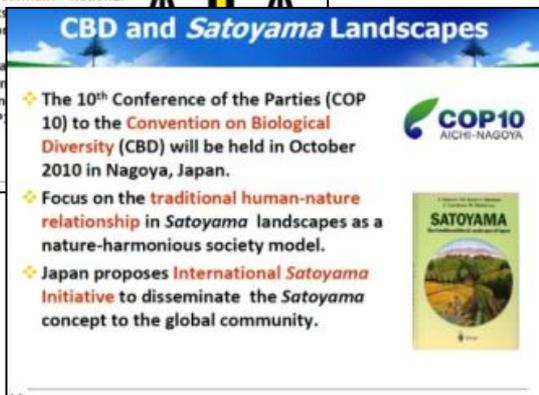
2010年10月9日  
毎日新聞・但馬版  
2010年10月9日  
朝日新聞・但馬版

# 国際拠点

グローバルな環境問題に対する俯瞰力や、アジア・世界への情報発信力、コミュニケーション能力などの国際力を高めるためのウィンタープログラムを開講し、国連大学高等研究所のもつ優れた人的資源やプログラムを生かした、英語による講義・演習を行う。



- 新設科目の準備・検討
  - 国連大学高等研究所 (UNU-IAS) と講義内容・演習プログラムの検討
- 他拠点との連携による効果的プログラムの検討および試行
  - 「里山学総論」における UNU-IAS の最新成果の教材活用 (MA、里山里海 SGA、SATOYAMA イニシアティブ等)
  - 「フィールド科学総合演習」における UNU-IAS スタッフ の参画、協働による調査、英語による討論会等



# Joint lecture course "SATOYAMA, the traditional rural landscape of Japan"

- held as 4-day intensive course every year as;
  - a credit course of Applied Landscape Ecology and Planning (former *Japan-Asia Satoyama Education Initiative*”), for master course students of Department of Ecosystem Studies, Graduate School of Agricultural and Life Sciences
  - a credit course of “*Japan-Asian Studies*”, University-wide Graduate School Education Program
  - a credit course of “BG-E-23 Sustainable Bioproduction and Biodiversity”, for master course students of UNU



Master of Science in Environmental Governance  
with Specialization in Biodiversity

# International Partnership for the *Satoyama* Initiative (IPSI)

## SATOYAMA イニシアティブ 国際パートナーシップ (IPSI)

第1回 定例会合 ～自然との共生に向けた第1歩～

IPSI総会 ▶ 2011年3月10日(木) 公開フォーラム ▶ 3月11日(金)

※ 総会への参加は原則としてIPSI会員のみとなります。総会の取材をご希望の方は下記問い合わせ先までご連絡ください。

会場：名古屋大学野依記念学術交流館  
(最寄駅：地下鉄名城線 名古屋大学駅)

主催：IPSI  
共催：環境省・国際連合大学高等研究所



### 公開フォーラム

2011年3月11日(金)  
9:30~17:15 (開場9:00) (予定)

#### 参加申し込み方法

参加を希望される方は、以下の内容を明記の上、メールにてお申し込みください。

件名 SATOYAMAイニシアティブ  
国際パートナーシップ公開フォーラム参加希望

本文 お名前(日・英)、ご所属、電話番号  
Eメールアドレス、本会合を知ったか

締切 2月25日(金) 17時まで

宛先 t.saito@c-linkage.co.jp

※会場の都合上、定員は50名程度を予定しております。応募多数の場合は抽選させていただきますのでご了承ください。3月4日(金)までにメールでご連絡させていただきます。

IPSI定例会合に関するお問い合わせはこちらへ

E-mail: t.saito@c-linkage.co.jp

株式会社コンベンションリソーシング (担当: 青藤)  
TEL 03-3263-8695

### 基調講演

- 国際自然保護連合 (IUCN) ジェフ・マクニリー 上席科学顧問
- 生物多様性条約事務局 科学及び専門的技術的事項セクション  
カレマニ・ジョー・ムロンゴイ 部長

☆プログラム詳細についてはHPをご覧ください。  
<http://satoyama-initiative.org/jp/>

SATOYAMA イニシアティブ 検索

### アクセス



人間が持続的に利用・管理してきた農地や二次林など、人の手によって維持されている二次的自然環境が、生物多様性や私たちが人間のために果たす役割について改めて見直し、維持・再構築しようとする取り組みが世界中で始まっています。公開フォーラムは、そうした取り組みを行っている団体が世界中から集まり、現状や経験を分かちあう場です。里山や身近な自然に関心を持つ方、是非ご参加ください。



SATOYAMA イニシアティブは、二次的自然環境における生物多様性の保全や、持続可能な利用の促進のため、環境省及び国際連合大学高等研究所が中心となり提唱してきた取組みです。IPSIは本イニシアティブの活動を促進するため、昨年開催された「生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)」の期間中、国・地方政府、研究機関、国際機関、NGO、民間企業等によって設立された国際パートナーシップです。

<http://satoyama-initiative.org/en/>

# まとめ～JASEIにおける 生態系サービス教育の効果と課題

- 俯瞰的な講義とフィールドワークの適度な組み合わせ
  - 「やりっ放し」にならないフィードバックのしくみが必要
- 多様な教育スタッフによる文理融合アプローチ
  - ESの多様な側面(研究・評価手法含む)の理解に有効
  - 教員協働によるシラバス作成と持続的な人材確保が重要
- グループワーク等のアクティブラーニングによる能動的参加(例:シナリオ分析)
  - 教員のトレーニングも必要、習熟度に応じた課題設定
- 現場のもつ教育力の活用(例:多様なステークホルダーとの接触)と現場へのフィードバック
  - マンネリ化をどう防ぐか?
- 「国際化」というオプションの意義